

TOKEI SHIMPO

NO. 2

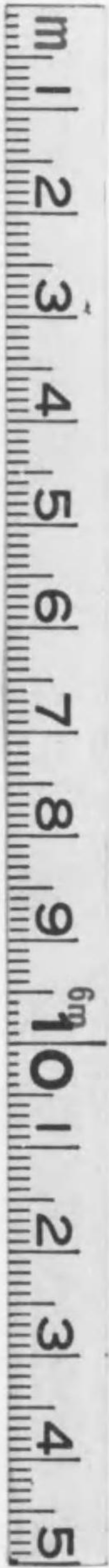
東京新報

明治九年十二月十六日

毎月六回

米國人フルベッキ氏寄書前回ノ續
 詩二章
 前回略史ノ續
 不相當ノ話
 英國ニ於テ金銀ノ用物ヲ製造セシ傳報

第二號



始



緒言

嚮ニ編ム所ノ東京新報第十八號ニ至リ編者故有
テ憲課ヲ休ス陋蕪茲ニ編輯ヲ受テ今年發兌スト
雖ヒ冊子前回ノ次號ヲ追ハスシテ更ニ第一號ト
ナスモノハ其蒐集ノ意殆ト端緒ヲ改ムルモノニ
似タリ所以然者ハ編者各自ノ所見同シカラサル
有ルキハ其取捨選舉スル所ノ體裁亦自ラ異ナラ
サルヲ得ス是レ維ノ冊子前回ノ次號ヲ追ハスシ
テ別ニ一端ヲ創起スル所以ナリ覽者幸ニ之ヲ諒
セヨ

編者誌

東京新報第二號

○米國人フルベツキ氏寄書前回ノ續

第二其他貴社新聞ノ世ニ益アルヲ最モ著明ナル容貌ハ其
活潑タル至當ノ範圍内ニ於テ見出サルヘキナリ即チ世
間衆民ニ廣ク此ノ高尚ナル教ト巍々乎タル道説ヲ示告
スルニ臨ミ其影響波及スル所果シテ如何ゾヤ眞教ノ説
ニ非シテ他ニ何ニ物カ塵世百般ノ弊害艱楚ヲ盡ク禁止
シ得ルノ勢力アラシヤ人々其行ヒ篤ク其心誠ニシテ百
德兼備ノ親子ヲ輩出シ國人ニ幸福ヲ眞正ニ得サシムル
ニハ此眞教ノ道説ガ獨リ其至盛ナル功驗アルモノナリ
第三勿論貴社ノ新聞ニハ有名ナル外國ノ新聞紙ニリノ抄
書ヲ掲載セント信スヘキナリ○此ノ抄書ヲ以テ此ノ地

球ノ他方面ニ棲居スル民心ヨイカナル感情ノ根過スル
 ヤチ是ノ國人ニ覺知セシムルヲ得ヘシ○カクノ如クシ
 テ此ノ國ノ人心ハ愈益皇張セラレ且昨今迄ハ幽ニ思
 ナ及セル所ノ山海遠隔ノ外國人ニ對シ相憐ノ情ヲ提
 セシム可キノ時將ニ來ラントス實ニ世界萬國ハ唯一大
 親族ニシテ萬民ハ則チ獨一ナル慈愛至深ノ主宰ノ子々
 孫々タルノ真理ヲ此ノ邦民開悟スヘキ域ニ到ラントス
 第四足下等常ニ青年輩ノ心ニ靈魂ノ食物ヲ供給スルヲハ
 僕輩推量シテ疑ハサル所ナリ仁愛德行ノ貴重ナル種子
 ナ受ケ收ムルハ春秋ニ富ム幼少ノ時ニ在リ故ニ貴社ノ
 新聞紙ハ此ノ方向ニ於テ世ヲ利益シ以テ其幸ニ永續ス
 ル結果ニ依テ僕等ノ喋々チ俟ズシテ明瞭タル有功事跡

第五世ニ顯ハサンコチ僕等頻リニ期望スルナリ
 以上枚舉セル外ニ又唯一点チ指示セントス○月々貴
 社ニ發兌スル新聞紙ノ每號ニ插ミ以テ連續セシムル論
 說ノ趣意本體ノ内チ事實上ニ於テ公然トシテ基督ノ曰
 ハレシニ我國ハ此ノ世ニ非ストノ格言ハ何ニモ緊要ナ
 ル義理ニアラスヤ又シーザルノ物ハシーザルニ納メ上
 帝ノ物ハ上帝ニ納メヨトノ救主ノ戒言ハ如何ナル義ナ
 ル歟チ普ク此ノ世ニ表明公布スヘキ好機會ニ足下等方
 今相逢フコチ信スルナリ之ニ依テ是ヲ觀レハ貴社新聞
 紙世ニ裨益アルコト誠ニ是ヨリ大ナルハ無シトス就中此
 ノ一点ニ到テハ至大至要ノ處ナリト愚ハ按スルナリ何

者ナレハ基督ノ真教ノ何物タルヲ未ダ了解セズ故ニ此
 ノ宗教ヲ今俄ニ導キ開キナハ國家ニ危害ヲ醸生ス可シ
 ト無限ノ恐ヲ抱クモノ尙爰ニ少ナカラサレハナリ抑
 國是ニハ抵觸セズシテ教法ニ關スル問題ハ何ニモ自由
 自在肆然トシテ討論サル可キヲ天下ニ公明スルノ好機
 會ヲ貴社ニ於テ今日之ヲ得タリト謂フヘシ○真理齊整
 タル教法新誌ハ今言フ所ノ何ノ據モナキ恐怖ヲ鎮撫
 藉スヘキノミナラス尙且國民ノ上ニ治布スル真教ノ勢
 力ニ於テ能至大ナル便益ヲ受ケ收ム可キヲ寧ロ期望ス
 ヘシトノ證據ヲ政談家ノ心裏ニ報知スルノ形勢アルヲ
 僕堅ク信シテ尙々保證スル所ナリ今マ文ヲ結ニ臨ミ新
 聞紙ニ因テ獨リ爰ニ記載セル信益ノ容姿ノミナラス尙

其他許多ノ實功ヲ世ニ奏セシメテ僕類ニ足下ニ對シテ
 望ム所ナリ是ノ冀望ヲ吐露スル許ヲ我ニ與エト云爾
 ○賀原教兄發兌東京新報
 熊澤善次
 辛苦多年奉一神。傲他傳道福音人。如今又舉新聞紙。欲布普天
 率土濱。

○贈原教兄賀新聞紙發兌
 辻梅嶺
 三千五百役魔權。誰叩窄門認上天。請見東洋保羅在。編成新誌
 四方傳。

○前回略史ノ續キ 谷道人

茲ニ稽フル耶蘇教ノ日本ニ入ルヤ大永二十年西人ノ始テ
 傳播スル所ニ基ツケリ此ヨリ其後數十年間或ハ禁シ或ハ
 弛ミ德川氏天下ノ權ヲ掌握スルニ至リ痛ク之ヲ禁絶セリ

然一タヒ浸潤ヲ經ルノ餘深ク上帝ヲ信シ象教ヲ惡シテ
 陰ニ之ヲ遵奉スル者アリ數十年間家ニ嗣ギ戸ニ論シテ信
 者益多ク寛永十四年遂ニ嶋原ノ變ニ至レリ(此皆加特力宗
 ナ信ズル者也)今此ノ由來ヲ溯記スルニ未タ年湮代遠ナラ
 スト雖ヒ其詳悉ヲ得ルハ能ク數日ノ辨スル所ニアラズ故
 ニ之ヲ後撰ニ讓リ先ツ嘉永六年(一千八百五十三年)外國交
 款ノ端ヲ開キ緒ヲ解ク以還ヲ述ブ日本交款ヲ外國ニ允可
 スルノ後西人ノ長崎ニ來ル者月々ニ増殖シ耶蘇教師亦共
 ニ來レリ安政三年(一千八百五十六年)佛國教師沙米孫長崎
 ニ來リ加特力教ヲ説ク四年羅馬僭王ノ代理佛國主教伯納
 德來ル是ヲ嘉永以還西教師來ル者ノ始ト爲ス五年(一千八
 百五十八年)七月米國教師維廉來リ新教ヲ説ク此ノ時維廉

支那(上海)ニ在リ道ヲ傳フ日本ノ開港ヲ聞キ衆ニ先テ來ル
 (今東京入船町立教學校ニ在リ)同年十一月米國教師弗爾陌
 希孟伯拉崙來ル(弗爾陌今駿河臺ニ在希孟伯拉崙今横濱ニ
 在)六年教師多木孫亦米國ヨリ來リ(今築地新榮町ニ在)并ヒニ
 皆新教ヲ説ク此ヨリ先キ徳川氏耶蘇教ヲ禁ズル益嚴ナリ
 凡ソ海内ノ人士民ヲ論セズ皆釋教ヲ宗トシ耶蘇教ヲ宗ト
 セザルノ證ヲ立テシメ而シテ殊ニ耶蘇ノ像ヲ畫キ長崎ヲ
 限リ士民ヲシテ之ヲ踏フテ其教ヲ奉信セザルノ證ヲ立テ
 シム諸教師ノ來時ニ當リ愈甚シ(以下次號)
 ○不相當ノ話
 天ノ以テ人ニ與フル所ノ者豈偶然ナランヤ耳目以テ塞グ
 ベカラズ手足以テ束ヌベカラズ其餘百體皆然ラサルハナ

シ況ヤ天眞ヲ毀傷シ風俗ヲ卑陋シテ野蠻夷狄ノ陋套ヲ存
スルヲヤ何チカ天眞ヲ毀傷シ風俗ヲ卑陋スルト云ヤ曰ク
娥眉ハ以テ薙グベカラズ皓齒ハ以テ染ムベカラズ肉身ハ
以テ文クベカラズ頭髮ハ以テ削ベカラズ苟モ之ヲ爲ス是
之ヲ不相當ト謂フ維新以來政府文身ノ甚タ陋醜ニシテ不
相當ナルヲ以テ海内ニ令シ痛切之ヲ禁ズト雖モ三ツノ者文
明進歩ノ今日ニ至リ猶都鄙ニ充滿セリ豈ニ陋習ヲ存シ舊
套ヲ守リテ甚タ不相當ナルニアラズヤ然ラハ三者ハ大小
先後ノ別ナク共ニ均シキ陋風ナルヤ曰ク若シ其次第ヲ言
ハバ何ソ其別ナカラソ乃チ淫齒ハ薙齒ニ勝リ薙眉ハ僧頭
ニ勝レリ蓋シ淫齒ハ白チ以テ黒ト爲シ其眞チ枉グルト雖
モ未タ之ヲ毀傷スルニアラズ薙眉ハ天生ノ眞チ傷ヒ造化

ノ機ヲ損スルヲ以テ淫齒ニ比スルニ稍陋トナス僧頭ニ至
テハ唯其眞チ傷ヒ其機ヲ損スルノミナラズ切要ノ外障ヲ
破リ肝緊ノ内部ヲ惱マシ尤モ害尤モ陋ナル者ニシテ甚タ
不相當ナル者ナリ故ニ文明國ニ於テ此等ノ醜形陋容ナシ
唯犯罪者ニ頭ヲ剃スルノ刑ヲ加ヘ又西人初メ我國ニ至リ
シ僧頭ヲ見テ疑テ犯罪者トナスト風ニ聞シカ素ヨリ亦
宜ナラズヤ諺ニ曰僧頭ヲ打來レハ腐敗南瓜ノ響ヲ聞クト
夫レ世俗ノ俚言スラナオ僧頭ヲ鄙シム況ヤ西人チヤ況ヤ
上等社會チヤ或曰ク半頂結髮モ亦陋ナルニアラズヤ曰ク
陋ハ則チ陋ナリ然レモ猶僧頭ニ勝レリ其半チ存スルヲ以
テナリ置シ子貢告朔ノ餼羊チ棄ント欲スルニ當リ孔子曰
ハスヤ我ハ其禮ヲ愛ムト我亦半頂チ以テ此ノ看ヲ爲サ

ルヲ得ズ嗚呼數者ハ實ニ不相當ナリト雖也猶僧頭ニ勝シ
 リ僧頭ハ甚々不相當ナルカナ我門願クハ我國ヲシテ早ク
 其醜跡ヲ斷テ益化域ニ進行センヲ

○英國ニ於テ金銀ノ用物ヲ製造セシ傳報

近頃英國ニ善ク金銀ノ器ヲ造クルモノニ特命アツテ日本
 ノ欸式ニ仿ヒ金銀ノ器并ニ大菜器皿ヲ製造ス其精巧ヲ極
 メ各器中ニ龍鳳龜ノ形ヲ并ニ菊花紋ヲ鑄刻セリ之ヲ試ム
 ルニ花盆ノ四足龜ノ如ク旁ニ鑄ル龍鳳ノ形ハ尤モ逼真ニ
 シテ盆中ニ設ル滿注ノ香水機關一動スレハ四座ニ噴出シ
 テ芝蘭ノ室ノ如シ頗ル妙工奇器ナリト云フ知ラス果シテ
 信ナリヤ否

編輯兼印刷 鈴木舍定

定價 一冊 二錢 一ヶ月前金 十一錢 三ヶ月前金 廿九錢

府外遞送ハ此外ニ郵便稅ヲ受ク

東京銀座三丁目十六番地

本局 十字社

賣 東京芝日影町一丁目一番地 十字屋支店

横濱吉田町一丁目 堤 誠太郎

別 神戸中山手通六丁目 雜報社

終

